第 23 回環境情報科学センター賞
受賞者

学術論文奨励賞

受 賞 者：平山奈央子　氏

（滋賀県立大学環境科学部）

対象業績：地域環境の保全力及び地域防災力の向上のためのステークホルダーの役割の実態に関する一連の研究

【受賞理由】

審査対象となった業績 5 件は，いずれも同一の筆頭著者によるものである。CEIS が刊行する論文集に学術論文として掲載されており，個々の論文は一定の学術的評価を得ている。

このうち，論文①は湖沼流域に限らず広汎な環境保全活動団体を対象にしている。論文②，③および⑤は，いずれも琵琶湖流域を対象とし，地域住民や自治会にアンケート結果を分析している。論文②では，内湖周辺の集落住民を対象としており，琵琶湖やその内湖の価値（水資源，生態系・生物多様性，景観，レク・文化・学習，産業）や関連する政策への信頼性と，内湖の保全活動に対する地域住民の主体性（意欲）等の関係を明らかにしている。論文③では，琵琶湖流域内の一級河川の二流域の集落住民を対象としており，琵琶湖に対する愛着，琵琶湖に関する情報源の種類数，知識レベルと環境評価（水質・生態系）との関連性を明らかにしている。論文⑤は，滋賀県内（琵琶湖の流域圏）を対象に自治会の洪水ハザードマップの作成が少数であり，地域の水害リスクレベルや，住民に水害リスク意識のレベルが，作成された地図情報に影響を及ぼしていることを明らかにした。論文④は，湖沼保全事業が行われている湖沼（琵琶湖を含む）の自治体にアンケートを実施し，行政，NPO，民間企業，市民との協働活動を 4 タイプに分類し，それぞれのステークホルダーの役割分担の特徴を明らかにした。

これら一連の研究は，アンケート調査を基に，地域環境の保全，特に湖沼流域における環境の保全，及び地域防災におけるステークホルダーの役割の実態に関する分析を行っている。いずれも地域における環境の保全及び防災をテーマにしている。その視点ならびに研究手法には一貫性がある。地域環境の保全力や防災力を高めていくためには，知見の集積が必要であり，平山氏の一連の研究は，いずれも手堅い結果を導いている。ただ，地域環境を取り巻く状況を俯瞰すると，まだまだ多くの課題が残されている。そう考えるとこれら一連の研究の方向性の先に，将来の進展が期待される。

以上より，これら一連の研究は，学術論文奨励賞に十分値すると判断した。

＜対象論文＞

①平山奈央子・井手慎司・佐藤祐一（2019）環境保全のための多主体間連携の実態とあり方に関する一考察，環境情報科学学術研究論文集 33，73-78.

②平山奈央子（2020）内湖の持続的な管理における地域住民の主体性に影響を与える要因，環境情報科学学術研究論文集 34，61-66.

③平山奈央子（2021）琵琶湖流域の環境評価に影響を与える要因，環境情報科学学術研究論文集 35,55-60.

④平山奈央子・井手慎二（2020）Role Sharing among Stakeholders in a Collaboration Project for Lake Basin Conservation, Journal of Environmental Information Science, Vol.2020,No.1,68-79.

⑤平山奈央子（2020）Current Status of Creating Flood Hazard Maps by Local Residents and Factors Affecting the Information on Maps, Journal of Environmental Information Science, Vol.2020,No.2,10-18.